

温かい人柄に触れ、改めて豊かな心の大切さに気付く

▼慶応義塾大学（東京）の学生が、
8月に引き続き、日野町で田舎暮らしを体験

（有）安達商事 移動販売車視察

今年から始まった慶応義塾大学との交流事業。第一陣の6人が8月に訪れ、移動販売車視察やIターン青年との交流など、人の温かさやつながり、支え合いを感じて帰京しました。

9月2日から7日まで第二陣2人、9月9日から14日まで第三陣2人が町を訪れ、移動販売視察のほか、日野高等学校での野外授業視察、日野川くだりラフティングなどを体験しました。

今回も学生は接した人から、温かさや強いつながり、支え合いを実感した様子で、地域を愛し、生活している町の皆さんの豊かな心と姿に感動し、笑顔で日野町を後にしました。



▲移動販売車の車内や訪れた人と交流



▲移動販売車を訪れる人に話を聞く学生



▲初めてのラフティングを楽しみながら自然を満喫

日野川くだりラフティング



▲思いっきり自然と戯れる。最高の笑顔！

都市と地方の人材交流を基本に、都会育ちの若者が田舎暮らしを体験し知り得た地域の実情を、今後、社会人として生かすことを目的に、今年から始まった慶応義塾大学との研修事業。8月に6人、そして9月に4人が町を訪れ、安達商事の移動販売車や日野病院の視察、日野高校の生徒、Iターンした若者との交流、ラフティングや宝仏山登山に挑戦しました。

移動販売車の視察では、安達商事の小ひまわり号に同行し、奥渡地区、真住地区を回りました。学生は、買い物に訪れる高齢者の皆さんに積極的に話しかけ、移動販売が生活にどれだけ必要なものか生の声を聞き、この事業が中山間地に必要な事業であること学ぶことができました。

日野病院では、中山間地の地域事情として受診の際の交通手段や、訪問診察、黒坂診療所の運営のほか、医療相談員が受ける高齢者が多い地域の支援について話を聞きました。在宅生活をどのように支えていけば良いのか、限られた支援を効果的に活用するた

【来町した学生の皆さん】

▼9月2日(日)～7日(金) 112人



商学部 4年
そめやふみたか
染谷文崇さん
(埼玉県出身)



商学部 3年
ふくだじゅんや
福田純也さん
(東京都出身)

▼9月9日(日)～14日(金) 112人



商学部 3年
あかねやさき
茜谷早紀さん
(秋田県出身)



商学部 3年
い 李 エリさん
(韓国出身)



▲自然豊かな登山道を歩く

宝仏山登山



▲頂上に到着！達成感に包まれる

日野高校野外授業視察



▲チェーンソーで丸太切りに挑戦

▼黒坂診療所で地域医療について聞く



日野病院視察(黒坂診療所)

I ターン青年と交流



▲高田さん(左から2人目)から話を聞く

めに日々奮闘している現場の話聞くことができ、改めて生活することの大変さを感じた様子でした。

また、学生らは日野町の豊かな自然の中で、ラフティングや宝仏山登山を体験。その中でもラフティングは初体験で、前日からワクワク、ドキドキしていたそうです。ラフト(ゴムボート)に乗り、日野川へ入ると、開放的な雰囲気になり、荒い流れで落ちたり、高い岩場から飛び込んだりと満喫しました。

そして日野高校の野外授業にも参加させてもらい、授業の中で倒木する場面を見学。倒す方向を決め、的確に切り込みを入れる作業に感心していました。倒木後には丸太切りに挑戦。初めての挑戦に悪戦苦闘しながら切ることができました。

今回もホームステイを経験することができました。学生は「温かく接していただき、人情が実感できた」と、人の温かさに触れた喜びを笑顔で話しました。この研修で『豊かな心』に感動し、大切に気付いたようでした。